

談話室

## 表面分析研究会主催国際ミニワークショップの 開催に向けて

吉川 英樹<sup>a,\*</sup> 永富 隆清<sup>b,\*\*</sup> 高橋 和裕<sup>c,\*\*\*</sup>

<sup>a</sup> 物質・材料研究機構 〒679-5148 兵庫県佐用郡佐用町光都1丁目1-1 SPring-8

<sup>b</sup> 大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻 物質生命工学講座 〒565-0871 吹田市山田丘2-1

<sup>c</sup> 株式会社島津製作所分析計測事業部 〒259-1304 神奈川県秦野市堀山下380-1

\*hyoshi@spring8.or.jp

\*\*nagatomi@mls.eng.osaka-u.ac.jp

\*\*\*bobkt@shimzdu.co.jp

(2008年7月29日受理)

表面分析研究会 (SASJ: Surface Analysis Society of Japan) では、国際 PSA (Practical Surface Analysis) 会議を日本と韓国とで交互に開催している。この会議は、SASJ 最大規模の会議であるが、規模の大きさ故に日本での開催頻度が6年毎となっており、タイムリーな海外への情報発信ならびに海外研究機関との協力関係の構築という観点で、会議開催頻度の少なさが懸念された。そこで国際 PSA 会議よりも規模をずっと小さくした国際ミニワークショップの企画が提案された。本稿では、国際ミニワークショップの企画、運営に対する方針を示すと共に、第1回国際ミニワークショップの開催案を紹介する。

## Proposal for International SASJ Mini Workshop

H. Yoshikawa<sup>a,\*</sup> T. Nagatomi<sup>b,\*\*</sup> and K. Takahashi<sup>c,\*\*\*</sup>

<sup>a</sup>National Institute for Materials Science, SPring-8, Sayo, Hyogo 679-5148, Japan

<sup>b</sup>Department of Material and Life Science, Graduate School of Engineering, Osaka University, Suita, Osaka 565-0871, Japan

<sup>c</sup>Shimadzu Corporation, 380-1 Horiyamashita, Hatano, Kanagawa 259-1304, Japan

\*hyoshi@spring8.or.jp

\*\*nagatomi@mls.eng.osaka-u.ac.jp

\*\*\*bobkt@shimzdu.co.jp

(Received: July 29, 2008)

Surface Analysis Society of Japan (SASJ) plans a timely international mini-workshop to present the SASJ's activity overseas and collaborate with foreign researchers on surface analysis. SASJ has already carried on the international symposium on Practical Surface Analysis (PSA) once every six years in Japan. But we concerns about missing chance to present SASJ's activity in this interval of six years. This is the reason why we plan the international mini-workshop. The present report indicates the scope and plan of the 1st SASJ mini-workshop.

## 1. はじめに

表面分析研究会 (SASJ) 国際ミニワークショップは, international symposium on Practical Surface Analysis (PSA) 会議を補間する形で, タイムリーな海外への情報発信ならびに海外研究機関との協力関係の構築を目的として発案された. 著者らは SASJ 国際化担当として, この提案を受け実行に移す際の議論で, 単に規模を小さくした国際会議で海外の方を招くと言う「情報を得るだけの姿勢」では, 前述の目的は達成し難いと考えた. この目的を達成するには, 海外の研究者との活発な情報交換ならびに討論が不可欠であると考え, ミニワークショップの規模の小ささ故の小回りの良さを利用して, 「講演者の話を一方的に聴く」という通常の国際会議の形式よりも, 「十分な時間をかけて議論を行う」新たな形式を取り入れようとして企画した.

## 2. 第1回国際ミニワークショップ

第1回の国際ミニワークショップは, 「深さ方向分析」をテーマとして, 45人程度 (最大60人) の規模で2009年3月16日~19日の開催を計画している. 開催場所の候補としては, 沖縄の国際コンベンションセンターを検討している. 招待講演者としては, 韓国, 中国, ヨーロッパ, アメリカから8名程度の, 深さ方向分析に造詣が深くこの分野でチュートリアル的な発表をして頂ける方を考えている.

会議の名称については, 「国際ミニワークショップ」の仮称で検討作業がスタートしたため, 本稿ではこの仮称を会議名称とした. 仮称の「ミニ」の言葉の中に「自由闊達な会議」の意味を汲み取って頂ければ幸いである. なお, その後の実行委員会で「SASJ国際ワークショップ」を正式名称にすることになった.

## 3. 新たなポスター発表形式の試行

国際ミニワークショップの重要事項は, 前述の「十

分な時間をかけて議論を行える」形式を実現することと考えている. 具体的には, ポスター発表に新たな形式を試みようとしている. ポスター発表は, 「双方向の議論」と言う観点で, 口頭発表よりも優れている. ただし, ポスター発表の欠点は, 「ポスター発表者が, 同一セッション内の他のポスターの議論に参加するのが困難」な事と, 「ポスター発表者や質問者が熟練者でない場合に, 有意義な議論に発展し難い場合がある」事である. このポスター発表の欠点をカバーするため, 「1セッションあたりのポスター発表の件数を少なく制限する」こと, そして「ポスター発表者と質問者の議論を助けるための司会役を必要に応じてポスター毎に割り振る」ことを検討している.

## 4. 最後に

SASJ 国際化担当として, 表面分析の現場の技術上の問題を如何にして議論の場に挙げ解決策を模索するかについて, 国境を越えた方策を検討したいと考えている. その試みとして今回のミニワークショップを検討しているので, ぜひ現場での問題をひっさげてミニワークショップにご参加頂きたい. ただし, 提起して頂いた問題の内容が具体的でなければ有意義な議論にはならず, 具体的であるためには現場での実体験と問題認識が根底になければならない. この問題意識に問題解決への情熱が加わって, 始めて今回の企画は成功すると考えている.

## 5. 謝辞

本国際ミニワークショップにつきまして, 発起人である田沼繁夫氏, 鈴木峰晴氏ならびに, 実行委員会におきまして企画立案に多大なご尽力とアドバイスを頂きました以下の実行委員の方々に深く感謝致します. 柳内克昭 SASJ 会長, 木村隆 SASJ 副会長, 荒井正浩氏, 荻原俊弥氏, 伊藤博人氏, 岩井秀夫氏, 阿部芳巳氏, 當麻肇氏, 井上雅彦氏.